

1年は早いものです。田圃も春先の湖面と化した状況からどこまでも広がる緑の平原へ、そして今、頭を垂れた黄金色の稲穂の収穫時期を迎えてます。今月号から3回にわたり、過去4年間の政治活動について報告します。

今後とも、アフターコロナを見据え活気のある阿賀野市創造に全力を尽くします!!

新潟県議会議員 帆苅 謙治

平成31年4月(5月より令和元年に)に8期目の当選を果たしてからの約4年間は、当初の1年間を除き新型コロナに翻弄された期間でした。

今月号から3回にわたり、8期目に向けて掲げた決意、政策がこの約4年間でどの程度達成できたのかを、その後のコロナ対策も加味しながら振り返ることとします。

帆苅謙治は、県議会議員として7期28年にわたって築いてきた経験と国・県との人脈を活かし、そして長年地域の声に耳を傾けてきたことを基本として、4年前、次のような決意、政策を掲げました。

- ①市民の幸せと安全。
安心を守る
- ②人口減少対策
- ③市の魅力アップ
- ④地場産業の活性化

今月号は、①市民の幸せと安全・安心を守る(防災・減災、インフラ整備)について取り上げます。

なお、②と③は11月号に、④は12月号に掲載する予定です。

・市民の悲願 安野川改修!

羽越水害では、安野川と大荒川が合流していることも相まって流出量が従来の3~4倍にも達し、下流2か所で破堤するな

ど成31年4月(5月より令和元年に)に8期目の当選を果たしてからの約4年間は、当初の1年間を除き新型コロナに翻弄された期間でした。

今月号から3回にわたり、8期目に向けて掲げた決意、政策がこの約4年間でどの程度達成できたのかを、その後のコロナ対策も加味しながら振り返ることとします。

帆苅謙治は、県議会議員として7期28年にわたって築いてきた経験と国・県との人脈を活かし、そして長年地域の声に耳を傾けてきたことを基本として、4年前、次のような決意、政策を掲げました。

◎水害から市民を守る 安野川大改修事業

・過去の大災害を踏まえて!

阿賀野市は、昭和39年新潟地震、昭和42年羽越水害、平成7年新潟県北部地震、平成10年豪雨、平成23年新潟・福島豪雨などの大災害が発生し、多くの被害を受けています。

羽越水害では死者15名、家屋の全半壊146棟が安田地区と笹神地区に集中しました。また、水原地区では豪雨の度に床下・床上浸水被害を受けるなど、抜本的かつ早急な治水対策が市民の悲願となっていました。

私は、「政治家の原点は市民の皆様の幸せと安全・安心を守ること」であると考えています。

特に、阿賀野市は河川の氾濫による洪水被害が多く発生してきたことから、これまで多くの河川改修に取り組んできました。ここでは、その代表的な安野川改修事業について述べます。

どの被害が発生しました。特に水原地区の水害対策は、



私が県議になつてから最も重要な政策課題であると強く認識しました。

私は、安野川の河川改修について、当時の県の土木・農地事務所と幾度となく協議を重ねた結果、漸く農水省の湛水防御事業に認定されるに至りました。

この結果、一級河川安野川の改修は県営湛水防除事業により行つことが決定しました。

改修は県営湛水防除事業により総事業費約400億円、毎年約17億円の予算で現在も鋭意工事が進められています。

最初から400億円の総事業費が決定したわけではありません。当初の予算は7億円でしたから、このままでは半世紀以上もかかりてしまします。

何とかより多くの予算を獲得するために、県予算全体から捻出される「安野川特別枠」を粘り強く要求したことが功を奏し、翌年から毎年予算が上乗せされました。工事の進捗が早まつたことは言うまでもありません。

令和4年9月末現在、国道49号に架かる橋梁架け替え工事を残し、安野川と大荒川の合流地点まで工事は進んでいます。

過去に改修した河川の点検も必要です。今後とも、治水対策から手を抜くことができません。

本年8月初旬、県北地域では集中豪雨による大災害が発生しました。地球温暖化に伴う異常気象が原因です。最近は、従来の設計降雨強度をはるかに超える降雨が発生しています。

②阿賀野川・藤戸川

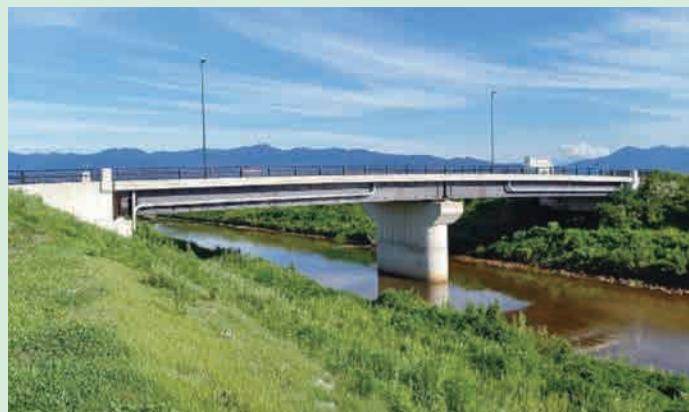
合流点処理事業



羽越本線阿賀浦橋右岸堤防補強工事(下里地内)

・これからも治水対策
は怠りなく!

事業の完成までにはまだ数年を要すると思いますが、当初の「農水省渋水防除事業」の採択と、「安野川特別枠」の獲得は、政治家として些か自負するところであります。



国道49号下流に架かる新百津橋

◎最近のインフラ整備状況

私はこれまで、阿賀野市民の安全・安心の確保と生活の向上を第一に考えて政治活動を行つてきました。ここでは、最近の4つのインフラ整備状況についてお知らせします。

①羽越本線洪水防止連携整備事業

JR羽越本線の阿賀野川右岸堤防(下里付近)を拡幅して開口部を塞ぐ工事を進めたことにより、洪水被害の懸念が解消されました。

③磐越自動車道4車線化の整備状況

平成30年の10月に周辺首長さんと地元経済界の方々と共に、財務省、国土交通省を訪問し磐越自動車道の4車線化の早期着工を要望しました。その結果、安田IC～三川IC間の約15kmが事業費約300億円で先行事業化されました。現在、工事は鋭意進行中です。

④阿賀野バイパスの状況

阿賀野バイパスは、本年11月上旬に下黒瀬～堀越までの5.4kmが部分開通する予定とのことです。「道の駅あがの」も8月5日に仮オープンしており、大変な活況とのことで喜ばしい限りです。バイパス開通により、さらなる活性化を期待しています。

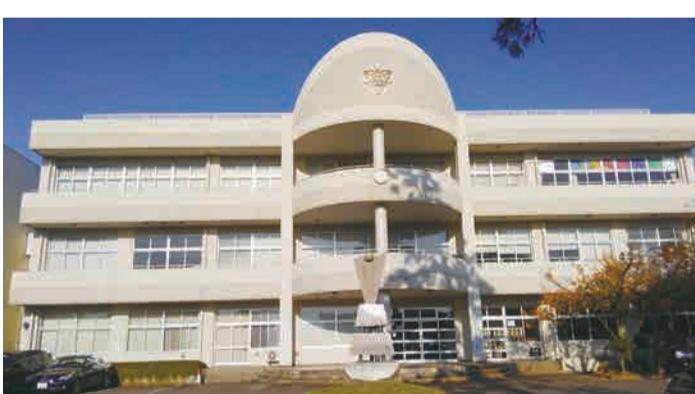
藤戸川は、阿賀野川の水位上昇によりバックウォーターが発生し、草水地区に浸水被害が発生しました。これを解消する樋門整備のため、令和3年度に約5億円の予算計上がなされました。一刻も早い工事の完成が待たれます。

私はこれまで、阿賀野市民の安全・安心の確保と生活の向上を第一に考えて政治活動を行つてきました。ここでは、最近の4つのインフラ整備状況についてお知らせします。

市民の声

学校に地域の支援を

見尾田正行（砂山）



安田中学校正門

去る8月5日、各地区の代表者が、午後5時半を過ぎると次々に集まってきました。安田中学校後援会の設立総会が開催されるからであります。少子化や経済環境が変わり、学校を取り巻く環境は大きく変わりました。

私たちが学生の頃は、怖いものといえば親父に巡査、先生でした。今は遠い昔の話です。学校運営は上手くいかないことが多くなり、子供たちに負担が掛かり始めています。

将来の日本や安田を担う大學生に学び、卒業して子供や孫校に共通しているのが安田中学と3世代に渡り関わりを持つことです。

将来の日本や安田を担う大學生に学び、卒業して子供や孫校に共通しているのが安田中学と3世代に渡り関わりを持つことです。

生徒会活動の支援や学校の環境設備の補助などを目的として、有志が集まり8ヶ月かけてやっと総会を開催することになりました。

時代は変わり、年代も職業も全然違う皆さん、ただ一つ共通しているのが安田中学が開催されるからであります。少子化や経済環境が変わったことから、地域の支援を

特定の思想・主義の主張や、他者への非難や批判ではなく、あくまでも建設的な内容に限ります。文字数は400字程度です。

ほかりけんじ事務所

〒959-2221 阿賀野市市保田 737-2
TEL:68-5441 FAX:68-5515
<http://www.hokaken.jp/>

活動動画を発信しています。

大勢の方から沢山の反響を頂いています。



今後学区内の皆様方にも後援会の支援をお願いに上がりますが、どうぞ宜しくお願い致します。

◎「ほかりけんじ・県政便り」は、新聞折り込みでお届けします。